

〔左經記〕萬壽二年七月廿二日壬寅始自今日以五口僧於承香殿五十ヶ日被轉讀大般若經余爲行事參入事了退出近來天下道俗男女不論老少惱赤裳瘡之由云々仍所被行也

〔小右記〕萬壽二年七月廿九日己酉春宮大夫頼宗使左衛門尉顯輔訪夜部父近事藤宰相廣業來謝夜前不來之事又云從昨尙侍赤斑瘡序病今日瘡出仍止修法加持 八月十二日辛酉宰相兩度來右兵衛督來兩人清談臨夜漏主上惱御赤斑瘡云々未及披露御傍親卿相皆觸穢 十三日壬戌白米和布黃燹瓜等給悲田先令問入數三十餘人令申主給物時多有未知之者仍相計其程令加給以堂頭得命師爲使左中弁經頼消息云主上自昨惱御赤斑瘡瘡所々出御御惱體不重者世間觸穢交來乙丙間未決定大略乙歟仍不能參内 十四日癸亥左頭中將公成近曾煩赤斑瘡云々大虛言歟近日重煩赤瘡云々 廿九日戊寅呼四位侍從經任訪大納言齊信新中納言長家大納言報云中納言室家重煩赤斑瘡僅平愈不經幾日未及其期七月產臥赤瘡疾之以來水漿不通日夜爲邪氣被取入不可敢存悲歎之間今有此消息者經任云痲病只止万死一生

〔榮花物語二十五月〕かくいふほどにことし二年萬壽はあかもがさといふものいできて上中下わ

かずやみのゝしるにははじめのたびやまぬ人のこのたびやむなりけり内一條後東宮朱雀も中ぐ

う子威もかんのとの子嬉などみなやませ給ふべき御としどもにておはしませばいとおそろ

しういかにくとおぼしめさる略中よろづよりもかんのとのこのあかもがさいでさせ給て

いとくるしうおぼしめしたりとてとの長道にはのしりたちていみじくおぼしあはてさせ

給略中東宮朱雀うちにはたゞけしきばかりにておこたらせ給てけりこのかんのとはこの

月などにこそはさおはしますべきにいとくおそろしき御ことなりとなげかせ給に御もが

さいとおほくいせ給てたいらかにおはしませど日ごろくるしうおぼされていとたへが

たげなる御けしきになりつれどつごもりにはおこたらせ給ぬればよにうれしきことにおぼ